

白藍塾オリジナル

2014入試小論文分析&解答のヒント

2014年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志

●慶応・経済学部

出題形式は例年通り、「説明問題+小論文問題」の二問立て。ただし、課題の内容は、近年になく経済学部らしいものだ。「イノベーション」という用語がキーワードになっているが、これは「技術革新」くらいの意味に理解してよい。

設問Aは、「イノベーションが自由市場経済に及ぼす良い影響と悪い影響」をまとめる問題だが、課題文の中ではっきりと説明されているわけではないので、意外に難しい。「模倣との違いに着目して」という条件も、答え方をややこしくしている。これについては、課題文の後半で、「途上国は先進国の技術を模倣することで経済成長する」と述べられている点がヒントになる。

「良い影響」については、最初の三段落から、「絶えず新しい商品を市場に送り出し、古い商品を駆逐することで、生産性を上げ、経済成長を促進する」くらいが妥当。「悪い影響」については、「模倣との違いに着目して」という条件を踏まえると、「イノベーションはすぐに模倣されるので、開発の苦勞に比べてイノベーターの受ける利益が少なく、そのためにインセンティブが低くなる。途上国が先進国の技術を模倣する場合のように、模倣するほうが経済成長につながることもある」などのようにまとめるのが無難だろう。

設問Bは、「積み上げ型の技術進歩」と「ジャンプアップ型の技術進歩（イノベーションとほぼ同義）」がそれぞれ社会に与える影響を比較する問題。イエス・ノー方式にするのは少し難しいが、「どちらのタイプの技術進歩が社会により良い影響を与えるか」を考えるとよいだろう。具体例は何でもよいが、携帯電話（ガラケー）とスマートフォンなどが考えやすい。

第一部で、「積み上げ型とジャンプアップ型のどちらのタイプの技術進歩のほうが、社会により良い影響を与えると考えられるか」などと問題提起をして、第二部以降で、それぞれの社会への影響を説明するとよい。「確かに、積み上げ型の技術進歩のほうが、従来のユーザーには対応しやすい。しかし、ジャンプアップ型の技術進歩は、人々のライフスタイルを一変させる可能性を持っている」「確かに、ジャンプアップ型の技術進歩のほうが、競争を激化させ、市場を活性化させる。しかし、積み上げ型の技術進歩は、市場を成熟させ、産業を安定的に成長させる」などのように書くことができるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>